

ディプロマ・ポリシー

<p>教育の目的</p>	<p>九州大学農学部生物資源環境学科は、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊かな課題探究能力とバランス感覚を備えた多様な人材の育成を目指して、教育研究活動を展開している。このような教育の目的に則り、以下の教育目標を達成した者に、学士(農学)の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物・化学・物理の基礎的知識を身につけ、その応用力を修得すること。 ・自然科学、特に専攻する分野に関する感性を高め、諸問題の解決能力を身につけること。 ・研究者、実務者としての能力を育成し、多様な分野で活躍できる専門職業人としての基礎的能力を育むこと。 <p>特に、農学部国際コースでは、経済発展に伴う環境問題やエネルギー問題、気候変動による災害や感染症など幅広い地球規模の課題に対する問題意識をもち、地政学的状況が異なる世界各国での農業の発展や課題を解決できる国際的センスを有する高度専門人材を養成している。このような教育方針に則り、分野横断型の視野の広い国際的人材の育成を目的としている。そのため、下記のような教育目標の達成を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境、エネルギー、気候変動、感染症など幅広い地球規模課題に対する問題意識を持つこと。 ・世界各国でそれぞれの地理的・文化的な背景に基づく独自の自然環境、生物生産技術を理解すると共に、世界規模での農業の発展と問題を理解すること。 ・科学的な根拠に基づくグローバルな視点から問題解決を導く、合理的なリーダーシップを獲得すること。 ・専門性と共に広範な分野を俯瞰できるセンスを磨き、地域の特異性と共に今後の世界的な農業の発展も主導できる知識と技術を習得すること。 <p>具体的には、次の学修目標の達成に向けた学位プログラムを提供している。</p>
<p>参照基準</p>	<p>日本学術会議分野別参照基準『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 - 農学分野』2015年を参照。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h151009.pdf</p>

<p>学修目標</p>	<p>A. 主体的な学び・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A-1. (主体的な学び)深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 ・ A-2. (協働)多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたるることができる。 ・ 農林水産業や環境科学、バイオテクノロジーに関連する幅広い学問分野に関心を持つことができる。 ・ グローバルな視点を持ち、問題解決をはかることができる。 ・ 文章表現能力、口頭発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。 ・ 情報収集・分析能力、コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを正しく表現できる。 <p>B.知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物理学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ 数学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ 生物学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ 化学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ 社会科学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ グローバルな農業に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 ・ 上記の知識を統合して学際的知識を理解し、説明できる。 <p>C.技能</p> <p>C-1.専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野の内容を深く理解し、その知識を利用することができる。 ・ 諸現象を解析的または数値的に処理できる。 ・ 物理的・化学的原理を利用した分析技術・理論を理解し、正しく実践することができる。 ・ 実験や調査の結果を分析・評価し、自分の考えを正しく表現できる。 <p>C-2.統合・創造能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識を統合し、問題解決に利用することができる。 ・ 問題点を見出し、その解決策を考えることができる。 <p>D. 実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学際的知識を研究、開発に応用できる。 ・ 複眼的な視野を有し、多様な問題解決法を考えることができる。
-------------	--

	<ul style="list-style-type: none">・国際的視野を有し、グローバルな課題の解決策を提案することができる。・科学的根拠に基づき、論理的に思考することができる。・学際的な知識を国際社会に還元する意欲を示すことができる。
--	---